

2013年10月24日

プレスリリース

本資料は10月24日にチューリッヒで発表されたプレスリリースの翻訳版です

クレディ・スイス・グループ

2013年第3四半期業績および同年1-9月期業績を発表

クレディ・スイス・グループの2013年第3四半期業績は、プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の回復力に富む収益性、株式業務の好調な収益、コスト削減と資本管理における継続的な進展を反映し、債券市場における顧客活動の低迷の影響を軽減

第3四半期業績：

- **基礎的業績***：コア税引前利益 9 億 3,000 万スイス・フラン（CHF）、株主に帰属する純利益 6 億 9,800 万 CHF、株主資本利益率 7 %
- **公表業績**：コア税引前利益 6 億 8,500 万 CHF、株主に帰属する純利益 4 億 5,400 万 CHF、株主資本利益率 4 %

第1-9月期業績：

- **基礎的業績***：コア税引前利益 44 億 7,300 万 CHF、前年同期比 37 億 9,700 万 CHF より増加、株主に帰属する純利益 32 億 100 万 CHF、株主資本利益率 11 %
- **公表業績**：コア税引前利益 40 億 1,700 万 CHF、株主に帰属する純利益 28 億 200 万 CHF

株主資本利益率 9%、

資本計画の継続実施、2013 年第 3 四半期末現在のレバレッジ・エクスポージャーのさらなる引下げ：

- ルックスルーのスイス国内コア資本比率は 11.4%に改善、ルックスルーのバーゼル 3 CET 1 比率は 10.2%に改善、ルックスルーの CET 1 + ハイ・トリガー資本比率は 13.2%となり、スイス国内の 2019 年要件である 13%を達成。これらの比率は、現金配当金の支払い再開にかかる 2013 年 1-9 月期の未払い費用計上分を含む。
- スイス国内レバレッジ・エクスポージャーを 2012 年第 3 四半期末から 16%減の 1 兆 1,840 億 CHF へ引下げ、2013 年末設定目標額を達成。ルックスルーのスイス国内レバレッジ・レシオは、調整済みベースで 3.5%に改善。

2013 年第 3 四半期 事業部門別業績：

- プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門：公表税引前利益 10 億 1,800 万 CHF、収益力の改善、コスト管理の進展で、低金利環境と季節的要因による顧客活動の低迷の継続的な影響を相殺、新規純資産は 81 億 CHF、高マージンのアセット・マネジメント商品、エマージング市場、超富裕顧客層における強力な資産流入による。
- インベストメント・バンキング部門：税引前利益は 2 億 2,900 万 CHF、継続的な市場リーダーシップによる株式業務の好業績が、困難な債券市場状況によって相殺されたことにより減益。資本と費用の管理を継続し、バーゼル 3 リスク加重資産 (RWA) は 2012 年第 3 四半期から 310 億米ドル減少、費用合計は 2012 年第 3 四半期と比較して 14%減、2013 年 1-9 月期の税引前利益は 22 億 8,300 万 CHF となり、前年同期比で 34%増、2013 年 1-9 月期のバーゼル 3 配賦資本税引後利益率は、前年同期の 9%に比べ回復力を示し 13%を記録。

各部門内に非戦略的事業ユニットを設立し、経営資源を利益率の高い事業へシフトし、それら事業の成長に注力：

- 現在、非戦略的資産につぎ込まれている資本とコストの削減をさらに

加速化

- 非戦略的業務をはっきり分離することによって、これまでそこにかけていた時間を継続事業と成長プロジェクトに重点的に振り向ける。
- 資本の大幅なリバランシングにより、インベストメント・バンキング部門が保有している RWA の割合をクレディ・スイス・グループの合計の約 50%にまで減らし、その分の資本をプライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の今後の成長に振り向ける。クレディ・スイス・グループの長期バーゼル3 RWA 目標額を約 2,500 億 CHF に修正（ルックスルー、外国為替の変動を考慮しないベース）
- インベストメント・バンキング部門の非戦略的事業ユニットに、既存の債券関連非継続事業、ならびに金利関連事業の大幅なリストラクチャリング、および従前からの訴訟関連費用の影響分を含めた。
- プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門にも同様の事業ユニットを設け、これに旧アセット・マネジメント部門のリストラクチャリング、主として米国からのクロスボーダーかつ優位性に劣った事業、および従前からの訴訟関連費用、小規模市場プロジェクトを含めた。

コスト節減対策のさらなる進捗状況：

- 年率換算で 30 億 CHF の 2013 年 1-9 月期のコスト削減を達成。2011 年上半期調整済み*年率換算ランレート対比で 2015 年末までに、以前発表した 44 億 CHF の費用ランレート削減目標を上回る 45 億 CHF 超を達成できる見通し

クレディ・スイス・グループは、2013 年 10 月 24 日、2013 年第 3 四半期業績および同年 1-9 月期業績を発表しました。

今回の発表について、最高経営責任者（CEO）のブレイディ・ドゥーガンは、次のように述べました。

「2013年第3四半期には、厳格な費用管理と効果的な資本管理の継続により、当社事業の多くにおける顧客活動の低迷に特徴づけられる、困難な市況の影響を軽減できました」。

「この2年間、当社は、困難な市場および規制環境に対応して当社の事業モデルを進化させるための大胆な措置を講じました。2013年1月以来、バーゼル3の規制枠組に基づく事業運営を行っています。第3四半期には、ルックスルーのスイス国内コア資本比率を10.4%から11.4%へとさらに改善したほか、スイス国内レバレッジ・エクスポージャーも740億CHF減の1兆1,840億CHFに引下げることができました。第3四半期末現在、ルックスルー、調整済みベースで13.2%を記録し、2019年に適用されるCET1+ハイ・トリガー緩衝資本要件の13%を達成しています」。

「引き続き、この進化を進めて、とりわけプライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門における高利益事業の成長促進を確実にするため、当社は、既存の事業縮小戦略を加速し、2つの事業部門にそれぞれ非戦略的事业ユニットを設立することで、ディスクロージャーも強化いたします。非戦略的事业ユニットを明確に分離することによって、時間および経営資源を継続事業と成長プロジェクトに重点的に振り向けるようにします。また、レバレッジ資産およびRWAのさらなる削減により、これに使われていた資本をとりわけプライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の今後の成長に振り向けるとともに、多くの利益を株主に還元すると言う目標をさらにサポートしていきます。これは、両事業部門においてよりバランスの取れた資本配賦を達成する上で重要な措置です」。

プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門について、「同部門では、前回発表したコスト削減目標金額に向けて順調な進展が見られた一方で、業績は現行の低金利環境と顧客活動の低迷の影響を受けました。当四半期には、引き続き、81億CHFという大きな新規純資産の流入がありました。これらの流入は、高マージンのアセット・マネジメント商品、エマージング市場、超富裕顧客フランチャイズによって主導され、西欧のクロスボーダー事業における資産流出によって一部相殺されました。いくつかの小規模市場における当社の地域プレゼンスの見直しを行いつつ、成長地域への経営資源の再配分を進めています。特に、アジアや中南米地域の主要エマージング市場における当社のプレゼンスの拡大を図るとともに、中東地域および東欧地域の一部の市場においても拡大を図っていかうと考えています。また、超富裕顧客層におけるさらなる市場シェア拡大にも努めていきます。さらに、デジタル顧客インターフェースの拡大にも投資し、これに、とりわけアジア地域の商品レンジの拡大、ポートフォリオ分析、調査、取引業務を盛り込む予定です。同時に、引き続き市場の整理統合化の恩恵を享受できる位置にあります」。

インベストメント・バンキング部門について、「同部門では、株式関連事業および社債等オリジネーションにおける好業績および継続的なコストおよび資本の厳格な管理によって、困難な債券市況の影響が軽減されました。当四半期の従業員の報酬および給付は、前年同期比24%減となりました。営業費用合計は、前年同期比14%減で、当四半期において、さらに1億2,800万CHFの訴訟関連引当金で、訴訟問題にさらに備えました。前年同期に比べ、RWAをさらに310億米ドル減の1,690億米ドルに削減し、2013年末の目標額を、予定より早く達成することができました。同事業部門の1-9月期の税引前のバーゼル3配賦資本利益率は、前年同期の9%に対して13%となりましたが、これは、高市場シェアおよび高利益事業への資本シフトの継続ならびにコスト効率化によって主導されたものです。このシフトの一環として、当社は利益の拡大、規制環境の変化への対応、市場構造の変化を見据えて、金利関連事業の再編と簡素化を進めています」。

2013年第3四半期業績の概要

決算ハイライト					
単位：百万 CHF (別途記載がある場合を除く)	2013年 第3四半期	2013年 第2四半期	2012年 第3四半期	2013年 1月-9月期	2012年 1月-9月期
公表税引前利益(コア業績)	685	1,531	348	4,017	1,472
基礎的*税引前利益(コア業績)	930	1,537	1,192	4,473	3,797
公表純利益 株主帰属ベース	454	1,045	254	2,802	1,086
基礎的*純利益 株主帰属ベース	698	1,041	1,051	3,201	2,921
公表希薄化後1株当たり利益(CHF)	0.26	0.52	0.16	1.55	0.69
株主資本利益率 株主帰属ベース (年換算)	4.3%	10.1%	2.9%	9.3%	4.2%
基礎的*株主資本利益率 株主帰属ベース (年換算)	6.6%	10.0%	11.4%	10.6%	11.0%
バーゼル3 CET 1比率(期末)	16.3%	15.3%	-	16.3%	-
ルックスルー・スイス国内合計資本レバレッジ比率(調整済み)	3.5%	2.7%	-	3.5%	-
1株当たり簿価合計(CHF)	26.48	26.63	27.60	26.48	27.60
1株当たり有形簿価合計(CHF)	21.25	21.11	20.73	21.25	20.73

プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の2013年第3四半期の純収益は33億2,000万CHF、税引前利益は10億1,800万CHF：

- ・ 純収益は、前年同期と比較して安定的に推移しました。これは主に、戦略的事業売却益が、純利息収入の減少によって相殺されたことによるものです。
- ・ プライベート・マネジメント&ウェルス・マネジメント部門の2013年第3四半期の新規純資産は81億CHFで、これは高マージンのアセット・マネジメント商品、エマージング市場、超富裕顧客層から引き続き強力な貢献があり、西欧地域のクロスボーダー資産流出によって一部相殺されたことによるものです。
- ・ 2011年上半期の調整済み*年率換算ランレートに対して、前回発表した2015年末までのコスト削減目標額9億5,000万CHFの達成に向けて、順調な進展が見られました。2013年第3四半期末の実現ランレート削減分3億5,000万CHFは、2013年第2四半期末の2億CHFを上回りました。
- ・ 費用/収入比率68%は、2013年第2四半期の69%から改善しました(スイス・英国二国間の源泉徴収税協定関連費用引当を除いた場合)。
- ・ ウェルス・マネジメント顧客事業：グロス・マージン105ベース・ポイント(bp)は、2013年第2四半期の110bpを下回りましたが、これは引き続き低金利市場環境からの悪影響があったためです。
- ・ 2013年1-9月期の税引後バーゼル3配賦資本利益率26%は、コスト改善と安定的な収益によるものです。

インベストメント・バンキング部門の2013年第3四半期の純収益は、25億5,200万CHF、税引前利益は2億2,900万CHF：

- ・ 純収益は前年同期を下回りましたが、これは株式関連事業および社債等オリジネーション事業が引き続き好調であったものの、特に債券市場における困難な市況によって完全に相殺されマイナスになったことによるものです。
- ・ コスト効率化に引き続き注力し、営業費用合計は2013年第3四半期を14%下回りました。訴訟引当金のさらなる積み増し分1億2,800万CHFが計上されました。

- ・ 資本効率化に大きな進展が見られ、RWA が 2012 年第 3 四半期比 310 億米ドル減の 1,690 億米ドルまで削減されました。
- ・ 同部門の税引後バーゼル 3 配賦資本利益率は、回復力に富み、2013 年 1-9 月期は 13% を記録しました（前年同期は 9%）。

各事業部門内における非戦略的事業ユニットの設立

本日、クレディ・スイス・グループは、2つの事業部門のそれぞれに非戦略的事業ユニットを設立し、非戦略的事業に関連した資本とコストの削減の加速化と継続事業と成長プロジェクトへの経営資源の重点的シフトに取り組むことを発表しました。各ユニットは、所属する事業部門内にあって、各事業部内の他の事業とは別途に運営管理され、2013 年第 4 四半期からクレディ・スイス・グループの業績に反映されます。

インベストメント・バンキング部門においては、既存の債券関連非継続事業、バーゼル 3 の要件を満たさない従前の資本商品や規制資本に大きく影響する仕組債等のポジションを主とした金利関連事業の一部、ならびにいくつかの従前からの訴訟費用およびその他の小規模非戦略的ポジションを非戦略的事業ユニットに移動します。

プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門においては、同様の事業ユニットを設立し、これに旧アセット・マネジメント部門の再編に関連したポジションを含めることにしました。また、小規模市場プロジェクト関連業務、主として米国からのクロスボーダーかつ優位性に劣った事業、および訴訟関連費用、ならびにドイツ国内業務の再編の影響も含まれています。

クレディ・スイス・グループは、非戦略的事業ユニットを各事業部門内で維持し、別個のユニットを設立しないことにより、各事業部門のシニア・マネジメントの専門知識と関心からの恩恵に利するように決定しました。業績は、部門別業績の中で個別に開示し、透明性を強化し、ポジションと経費の削減の加速化を意識したガバナンス設計を予定しています。この結果、クレディ・スイス・グループは、非戦略的事業ユニットの設立によって、レバレッジ資産と RWA のさらなる削減を促進するものと期待しています。また、資本をプライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の今後の成長に振り向け、さらなる資本の株主還元も可能となると期待しています。さらに、このことは、両事業部門においてよりバランスの取れた資本配賦を達成する上で大きな 1 歩であると確信しています。

金利関連事業の構造改革

クレディ・スイス・グループは、利益の拡大を図るべく、金利関連事業の再編と簡素化に取り組んでいます。最近の状況の変化、例えば、レバレッジに対する規制強化、市場構造の電子取引への移行などを見ると、金利関連事業モデルの適用に慎重にならざるをえません。現物商品では、当社は大量の流動性の高い電子取引に焦点を絞っています。デリバティブでは、金利関連事業モデルは、簡素化された商品にシフトし、解決済ではありますが、今後も金利関連事業の金融顧客および法人顧客のニーズに対応することに重点を置いていきます。この再編によって、大幅な経営資源を当該事業より引き上げるとともに、エクスポージャーを 600 億米ドル削減、RWA を 70 億米ドル削減することを見込んでいます。

コスト削減の現状

2013 年第 3 四半期末現在、クレディ・スイス・グループは、2011 年上半期の実績から推定した調整済み*年率換算ランレイトに対して、30 億 CHF のコスト削減*を達成しました。また、本日、2015 年末までに達成すべき合計ランレイト削減目標額を、前回発表した 44 億 CHF から 45 億 CHF へ引き上げます。これは、非戦略的的事业ユニット計画の影響を反映したものです。当四半期中にコーポレート・センターが認識した事業再編成コストは 3,800 万 CHF でした。

資本と資金調達

2013 年第 3 四半期末現在、クレディ・スイス・グループのルックスルーのスイス国内コア資本比率は 11.4% でした。これらの比率の算定には、2013 年について予定している現金配当金の支払い再開にかかる未払い費用の比例按分による計上分が含まれています。2013 年第 3 四半期末現在、クレディ・スイス・グループのバーゼル 3 普通株式等 Tier 1 (CET 1) 比率は 10.2%、2013 年第 2 四半期の 9.3% から上昇しました。2013 年第 3 四半期末現在のバーゼル 3 CET 1 比率は、16.3% で、2013 年第 2 四半期末現在を 1.0 パーセンテージ・ポイント上回りましたが、これは RWA の減少によるものです。また、2013 年第 3 四半期末現在の CET 1+ハイ・トリガー資本要件に基づく、クレディ・スイス・グループの資本比率は 13.2% (ルックスルー調整済みベース) でしたが、これは 2019 年から適用されるスイス国内要件の 13% に対応しています。

各事業部門内における非戦略的的事业ユニットの設立の影響を反映し、クレディ・スイス・グループは、2013 年末のスイス国内のレバレッジ・エクスポージャー削減目標を、先に発表した 1 兆 1,900 億 CHF から 1 兆 700 億 CHF に変更しました。2013 年第 3 四半期末現在のクレディ・スイス・グループのスイス国内のレバレッジ・エクスポージャーは、1 兆 1,840 億 CHF で、2013 年第 2 四半期末の 1 兆 2,580 億 CHF を下回りました。ルックスルーのスイス国内合計資本レバレッジ比率は、調整済みベースで、2013 年第 2 四半期末現在の 2.7% から 3.5% へ改善しました。

クレディ・スイス・グループは、部門内非戦略的ユニットの設立後、外国為替の変動を考慮しない 2015 年末の長期的なルックスルーの RWA 目標を、先に発表した 2,850 億 CHF から約 2,500 億 CHF に更新しました。2013 年第 3 四半期末現在のクレディ・スイス・グループのルックスルー RWA は、2,610 億 CHF でした。

クレディ・スイス・グループは、引き続き保守的な流動性管理を行っており、2013 年第 3 四半期末現在、現行 FINMA 枠組に基づく推定長期安定調達比率 (NSFR) は 100% を超えており、スイス国内規制に基づく短期流動性の要件も満たしています。

統合事業モデルのメリット

2013年第3四半期中に、クレディ・スイス・グループは、統合事業モデルから10億9,700万CHFのコラボレーション収益を創出しました。この金額は、当グループの2013年第3四半期の純収益の20%に相当します。

部門別業績詳細

部門別業績		2013年 第3四半期	2013年 第2四半期	2012年 第3四半期	2013年 1月-9月期	2012年 1月-9月期
単位：百万CHF (別途記載がある場合を除く)						
プライベート バンキング& ウェルス マネジメント	純収益	3,320	3,424	3,300	10,029	10,173
	貸倒引当金繰入額	34	46	35	108	114
	営業費用合計	2,268	2,461	2,329	7,105	7,195
	税引前利益	1,018	917	936	2,816	2,864
	費用／収入比率	68.3%	71.9%	70.6%	70.8%	70.7%
インベストメント バンキング	純収益	2,552	3,400	3,184	9,897	9,894
	貸倒引当金繰入額	7	4	6	5	(14)
	営業費用合計	2,316	2,642	2,695	7,609	8,204
	税引前利益	229	754	483	2,283	1,704
	費用／収入比率	90.8%	77.7%	84.6%	76.9%	82.9%

プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門

ウェルス・マネジメント顧客事業、コーポレート&インスティテューショナル顧客事業、アセット・マネジメント事業で構成されるプライベート・バンキング&アセット・マネジメント部門の2013年第3四半期の税引前利益は10億1,800万CHF、純収益は33億2,000万CHFでした。上場投資信託(ETF)事業とセカンダリー・プライベート・エクイティ事業を手がけるストラテジック・パートナーズ社の売却が当四半期中に完了し、資本参加利益2億3,700万CHFを計上しました。当四半期の純収益は、前年同期に対して安定的に推移しました。これは、その他の収益の増加と経常手数料収入の若干の増加が、純利息収入の減少によって相殺されたことによるものです。2013年第2四半期と比較すると、当四半期の純収益は若干減少しましたが、これは主にトランザクション・ベースと運用業績ベースの収益の減少、経常手数料／フィーが若干減少したものの、その他の収益の増加によって一部相殺されたことによります。

営業費用合計は22億6,800万CHFで、前年同期比3%減、2013年第2四半期比8%減となりました。これは主として、従業員の報酬と給付の減少およびスイス・英国二国間の源泉徴収税協定に関連した1億CHFの費用引当を2013年第2四半期に行なったことによるものです。正味融資ポートフォリオ2,140億CHFに対3,400万CHFの貸倒引当金を計上しました。

ウェルス・マネジメント顧客事業の2013年第3四半期の税引前利益は5億1,000万CHF、純収益は21億4,600万CHFでした。純収益は前年同期に対して安定的に推移しましたが、これは経常手数料／フィーの収益の増加が、純利息収入の減少によって相殺されたことによるものです。

2013年第2四半期と比較すると、純収益は8%減少しましたが、これは2013年第2四半期以降、顧客活動の季節的低迷により、トランザクション・ベースおよび運用業績ベースの収益が大幅に減少したことによるものです。2013年第3四半期のグロス・マージンは、105 ベーシス・ポイント (bp) で、前年同期に比べ 5 bp 低下しましたが、これは主に不利な金利環境が続いたものの、平均運用資産が増加したことによるものです。同年前期と比較した場合、グロス・マージンは 6 bp 低下しましたが、これは主として、トランザクション・ベースおよび運用業績ベースの収益の減少によるものです。

コーポレート&インスティテューショナル顧客事業は、スイス国内のコーポレート&インスティテューショナル顧客および世界中の銀行からのニーズに対応した包括的サービスを提供しています。2013年第3四半期の税引前利益は2億4,000万CHF、純収益は5億1,200万CHFでした。当四半期の純収益は、前年同期と比較すると安定的に推移しました。これは経常手数料/フィー収入の増加と、純利息収入とトランザクション・ベースおよび運用業務ベースの収益の減少によって相殺されたことによります。一方、2013年第2四半期比では、純収益は若干減少しましたが、これはトレーディングおよびセールス業務の収入の季節的減少ならびに統合ソリューションからの収入の減少によるものです。2013年第3四半期の営業費用合計は、前年同期を9%下回りましたが、2013年第2四半期を若干上回りました。費用/収入比率は51%で、前年同期の56%に比べ改善しましたが、2013年第2四半期を2.0パーセンテージ・ポイント上回りました。2013年第3四半期の貸倒引当金繰入額は、正味融資ポートフォリオ620億CHFに対して1,300万CHFを計上しましたが、これは信用ポートフォリオを適切に分散していることおよび確実なリスク管理を反映しています。

アセット・マネジメント事業の2013年第3四半期の税引前利益は2億6,800万CHF、純収益は6億6,200万CHFでした。当四半期の純収益は、前年同期を7%、2013年第2四半期を18%上回りましたが、これはETFとセカンダリー・プライベート・エクイティの両事業の売却により、資本参加利益2億3,700万CHFを当四半期に計上したことによるものです。

プライベート・マネジメント&ウェルス・マネジメント部門は、2013年第3四半期に81億CHFの新規純資産を計上しました。ウェルス・マネジメント顧客事業からは32億CHFの新規純資産の貢献がありましたが、これはエマージング市場、超富裕顧客層から引き続き大きな資産流入があったものの、西欧地域のクロスボーダー資産流出によって一部相殺されたことによります。コーポレート&インスティテューショナル顧客事業は、5億CHFの正味資産流入を計上しました。アセット・マネジメント事業は、当四半期に38億CHFの新規純資産を計上しましたが、これは主にエマージング市場と信用商品における資産流入によるものです。

インベストメント・バンキング部門

インベストメント・バンキング部門の2013年第3四半期の純収益は25億5,200万CHF、税引前利益は2億2,900万CHFを計上しました。これはとりわけ債券セールスおよびトレーディング業務における困難な市場環境によるものです。当四半期の純収益は、前年同期を20%下回りましたが、これは株式セールスおよびトレーディングの業績向上を、債券セールスおよびトレーディング業務の収益の減少と引受およびアドバイザリーの業績低下が上回ったことによるものです。当四半期の純収益は、2013年第2四半期を25%下回りましたが、これは3業務全体にわたる減収によりものです。

債券セールスおよびトレーディング業務：収益は8億3,300万CHFで、前年同期比42%減となりましたが、これは債券業務全般における業績低迷によるものです。2013年第2四半期に比べ、収益は34%減少しましたが、これは業務全般にわたる時季的な低迷が、金利の上昇とスプレッドの拡大によってさらに悪化し、顧客活動に悪影響をもたらしたことによるものです。

株式セールスおよびトレーディング業務：収益は10億6,500万CHFで、前年同期を8%上回りましたが、これは引き続き市場での当社のシェアが高かったこと、および株式市況が有利に展開したことによります。好業績を記録した前年同期に比べ、当四半期の株式セールスおよびトレーディングの収益は、20%減少しましたが、これは時季的な低迷によるものです。

引受およびアドバイザリー業務：収益は7億500万CHFで、前年同期を18%下回りましたが、これは株式の引受およびアドバイザリー業績低下が、引き続き好調であった社債の引受業務を相殺したことによるものです。当四半期の収益は2013年第2四半期に対して22%減少しましたが、これは社債と株式の引受およびアドバイザリー業務全般の収益が、業界の取引量の減少に伴い減少したことによります。

従業員の報酬および給付は、前年同期を3億4,800万CHF、24%下回りましたが、これは、業績の低迷と、過去数年に付与した繰延報酬費用の減少に伴い、裁量的業績連動報酬関連費用が減少したことによるものです。一方、2013年第2四半期と比べた場合、当四半期の従業員の報酬および給付は3億3,700万CHF、すなわち23%減少しましたが、これは主に業績低迷に伴う裁量的業績連動報酬関連費用の減少によるものです。その他の営業費用合計は、前年同期比で3%減少しましたが、これは主に訴訟関連引当金とプロフェッショナル・サービス・フィーの減少によるものです。2013年第2四半期に対しては安定的に推移しました。

インベストメント・バンキング部門の2013年第3四半期のバーゼル3 RWAは1690億米ドルで、これは先に発表した2013年末までにバーゼル3 RWAを1750億米ドル未満に引下げるとした目標をすでに達成しています。

コーポレート・センター

コーポレート・センターは、2013年第3四半期に税引前損失5億6,200万CHFを計上しました。これには自社社債の公正価値評価損6,800万CHF、いくつかのストラクチャード・ノート負債の借方評価調整に伴う損失9,900万CHF、単独デリバティブの公正価値評価益400万CHFが含まれており、これら3つの項目に関する損失の合計額1億6,300万CHFが当四半期に計上されました。2012年第3四半期は10億7,100万CHFの税引前損失、2013年第2四半期は1億4,000万CHFの

税引前損失を計上しています。また、当四半期の業績には、1億8,900万CHFの調整による正味減少が含まれています。これは、ETFおよびストラテジック・パートナーズ社の両事業の売却、また既に発表されているカスタマイズ・ファンド・インベストメント・グループ（CFIG）事業の売却から生じた収益と費用をプライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門から非継続業務勘定に組み替えたことによります。

（注*）基礎的および調整済みの業績は、GAAPによらない財務評価基準によるものです。基礎的業績を米国GAAP評価基準とほぼ直接比較できるように調整したものについては、本リリース（英文原本）の添付資料A（Annex A）「Reconciliation to underlying results - Core Results（基礎的業績の調整—中核業績）」をご覧ください。調整済み年率換算ベースの費用ラレート（注）の算定の詳細については、2013年第3四半期業績説明会用スライドをご覧ください。本リリースにおいては、プライベート・バンキング&ウェルス・マネジメント部門の個別事業の売却にかかる収益、費用および関連利益を、クレディ・スイス・グループの損益計算書上、非継続業務勘定に組み替えて記載しています。但し、これら事業の処分にかかる利益および費用は、当該事業部門の業績に含まれていますが、基礎的業績には含まれておりません。2013年第3四半期の財務諸表の「I Credit Swiss results - Core Results - Information and developments（クレディ・スイス業績—中核業績—情報及び進展）」の「Format of presentation and changes（表示形式及び報告内容の変更）」をご覧ください。

クレディ・スイス AG

クレディ・スイスは、世界有数の銀行として、プライベート・バンキング、インベストメント・バンキング、アセット・マネジメント事業を世界中で展開しています。アドバイザリー・サービス、包括的なソリューション、革新的な商品を、世界中の法人および富裕層個人顧客、またスイス国内の一般個人顧客に提供しています。クレディ・スイスは、世界50ヶ国以上に拠点を持ち、約46,400人の従業員を有しています。クレディ・スイスの本拠地はチューリッヒで、世界各地にある複数の事業法人で構成されています。親会社クレディ・スイス・グループ AG の株式（CSGN）はスイスおよび米国預託証券（CS）としてニューヨークで上場しています。日本語サイトは、<https://www.credit-suisse.com/jp/aboutus/ja/index.jsp>、グローバルサイトは、www.credit-suisse.com。

Cautionary statement regarding forward-looking information

This press release contains statements that constitute forward-looking statements within the meaning of the Private Securities Litigation Reform Act of 1995. In addition, in the future we, and others on our behalf, may make statements that constitute forward-looking statements. Such forward-looking statements may include, without limitation, statements relating to the following:

- our plans, objectives or goals;
- our future economic performance or prospects;
- the potential effect on our future performance of certain contingencies; and
- assumptions underlying any such statements.

Words such as “believes,” “anticipates,” “expects,” “intends” and “plans” and similar expressions are intended to identify forward-looking statements but are not the exclusive means of identifying such statements. We do not intend to update these forward-looking statements except as may be required by applicable securities laws. By their very nature, forward-looking statements involve inherent risks and uncertainties, both general and specific, and risks exist that predictions, forecasts, projections and other outcomes described or implied in forward-looking statements will not be achieved. We caution you that a number of important factors could cause results to differ materially from the plans, objectives, expectations, estimates and intentions expressed in such forward-looking statements. These factors include:

- the ability to maintain sufficient liquidity and access capital markets;
- market and interest rate fluctuations and interest rate levels;
- the strength of the global economy in general and the strength of the economies of the countries in which we conduct our operations, in particular the risk of continued slow economic recovery or downturn in the US or other developed countries in 2013 and beyond;
- the direct and indirect impacts of continuing deterioration or slow recovery in residential and commercial real estate markets;
- adverse rating actions by credit rating agencies in respect of sovereign issuers, structured credit products or other credit-related exposures;
- the ability to achieve our strategic objectives, including improved performance, reduced risks, lower costs, and more efficient use of capital;
- the ability of counterparties to meet their obligations to us;
- the effects of, and changes in, fiscal, monetary, trade and tax policies, and currency fluctuations;
- political and social developments, including war, civil unrest or terrorist activity;
- the possibility of foreign exchange controls, expropriation, nationalization or confiscation of assets in countries in which we conduct our operations;
- operational factors such as systems failure, human error, or the failure to implement procedures properly;
- actions taken by regulators with respect to our business and practices in one or more of the countries in which we conduct our operations;
- the effects of changes in laws, regulations or accounting policies or practices;
- competition in geographic and business areas in which we conduct our operations;
- the ability to retain and recruit qualified personnel;
- the ability to maintain our reputation and promote our brand;
- the ability to increase market share and control expenses;
- technological changes;
- the timely development and acceptance of our new products and services and the perceived overall value of these products and services by users;
- acquisitions, including the ability to integrate acquired businesses successfully, and divestitures, including the ability to sell non-core assets;
- the adverse resolution of litigation and other contingencies;
- the ability to achieve our cost efficiency goals and cost targets; and
- our success at managing the risks involved in the foregoing.

We caution you that the foregoing list of important factors is not exclusive. When evaluating forward-looking statements, you should carefully consider the foregoing factors and other uncertainties and events, including the information set forth in “Risk Factors” in I – Information on the company in our Annual Report 2012.

Capital and liquidity disclosures

As of January 1, 2013, Basel III was implemented in Switzerland along with the Swiss “Too Big to Fail” legislation and regulations thereunder. Our related disclosures are in accordance with our current interpretation of such requirements, including relevant assumptions. We have calculated our Basel III NSFR based on the current FINMA framework. Changes in the interpretation of these requirements in Switzerland or in any of our assumptions or estimates could result in different numbers from those shown herein. The calculation of after-tax return on Basel III allocated capital assumes (i) tax rates of 27% in 9M13 and 25% in 9M12 for Investment Banking and 28% for Private Banking & Wealth Management and (ii) that capital is allocated at 10% of Basel III risk-weighted assets. The calculation of the Look-through Swiss Total Capital leverage ratio on an adjusted basis and the Look-through CET1 plus high-trigger capital ratio on an adjusted basis, assumes the completion as of the end of 3Q13 of the October 23, 2013 exchange of CHF 3.8 billion hybrid tier 1 notes into high-trigger capital instruments. For further information regarding these measures, see the 3Q13 Results Presentation Slides.